

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3271100434		
法人名	社会福祉法人 かしま福祉会		
事業所名	グループホーム あとむ苑		
所在地	島根県松江市鹿島町北講武885番地6 (電話) 0852-82-9711		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月7日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(21年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7, 5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79, 5歳	最低 61 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江市立病院 鹿島内科クリニック 鹿島歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れたところで、馴染みの言葉を聞き、「のんびり ゆったり」過ごしてもらいたいと、地域に根ざしたホーム作りを目指す開設6年目のホームである。研修や災害時対策など法人の協力体制があり、設備面でも恵まれている。利用者は、好きな散歩をし、自分の住んでいた家や景色を見ながら昔話を楽しんでいる。管理者、職員は利用者の状態に応じてケアを工夫し、楽しく笑って過ごしてもらえるように話し合いながら改善に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は課題に対し「できない」ではなく「どうしたらできるか」と試行錯誤しながら取り組んできた。「地域とのつきあい」は運営推進会議で議題とし、「重度化」は家族と意志確認書を交わし、積極的な取り組みが始まろうとしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に職員全員で話し合い自己評価を行った。自己評価に取り組む中で課題が明確になり、職員全員で話し合いながら改善に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>「地域交流について」など議題を決めて話し合い、出席者から「グループホームのPRを」「広報誌の地域配布を」など、貴重な意見をたくさんもらっている。出席者の協力で地元の人ところに柿を採りに行った。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に意見を聞き、利用者のケアに活かしている。運営推進会議への家族の参加がなく、全体としての家族の声が運営に反映されにくい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人行事を通しての交流や、地域の神社の祭り、小学校の運動会への参加、地域の子ども達とのふれあいなど、地域との連携に努めている。「苑だより」を公民館や小学校、交番、郵便局などに届けている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家庭的な雰囲気の中で「のんびりゆったり」と暮らすことを目指した理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスとして、利用者のニーズや現状に合った内容になっているかを、時々職員全員で話し合う機会をもっていたきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりの職員は理念を周知し、日々のケアが理念に沿ったものか振り返っている。	○	権利擁護の観点から、契約書等の文書に「利用者の権利」について明文化を望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの法人の行事や、保育園児とのふれあい、中学生の体験学習の受け入れなどを通し交流を図っている。公民館や郵便局などに「苑だより」を届けている。	○	運営推進会議でも議題にされているので、情報を集めながらできることを探り、活動が広がることを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で話し合い自己評価を行った。職員は項目を検討することで気づきがあったと考えている。課題は全員で共有し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域交流」など、議題を決めて話し合い、出席者から積極的な意見をもらっている。出席者の協力で、地域の人のところへ柿を採りに行ったことがある。	○	議題によっては他の分野の人にも出席してもらい、さらに意義ある会議になることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議に出席し情報交換をしたり、わからないことを聞いたり相談するなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、居室担当者が中心になり利用者の健康状態や生活の様子を便りで伝えている。定期的に発行される法人だよりや、電話などでも伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見を聞き、利用者のケアに活かしている。家族同士が交流する機会がなく、全体の意見を運営に反映させるまでには至らない。	○	家族の事情など困難なところはあるが、家族の運営推進会議への参加を根気よく働きかけ、意見の引き出しに努めていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としての異動があるが最小限にしている。異動があった時は、さりげなく利用者に伝え影響がないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修に出る機会を作り内容は全職員で共有している。資格取得に向けて勤務調整をするなど支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、市の同業者の会議に出席し情報交換をしたり、他のグループホームと相互訪問をし学ぶ機会を作っている。	○	同業者との交流に努められ、職員の学ぶ機会になっているので、継続した取り組みになることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をしてもらったり、ショート利用をすることで利用を開始している。家族とも話しながら負担がないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と敬い、一緒に行動する中で作法や昔のことを教わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、利用者に寄り添い一緒に行動する中で、ちょっとした言葉から思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議やカンファレンスで、利用者や家族の希望を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月見直しを行い、利用者の状態に変化がある場合は、総合的に援助できるように細やかな計画に変更している。利用者の言葉などを書くように介護記録を工夫し、見直しの時の参考になっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援など、家族や利用者の状況に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が納得した医師による受診支援が行われている。1週間に1回、往診があり、夜間対応もできる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から利用者・家族と話している。終末期の看取り等について事前確認書を交わし、職員も看取りケアに取り組みたいと考えている。重度化した時は医師と連携し対応を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	更衣時など、利用者のプライバシーを損ねないように配慮している。人生の先輩として利用者を敬い接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間やテレビを見る時間、過ごし場所など、利用者の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗いなど、利用者の力を活かしながら準備や片づけをしているが、昼、夜は配食のため職員と一緒に楽しみながら作る機会が少ない。	○	朝食やおやつ作りで一緒に作るよう工夫されているが、さらに利用者の力が発揮できる場面が増えることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としているが、必要時にはシャワー浴を取り入れ対応している。重度の人にも対応できるよう機械浴も設置されている。	○	毎日でも入浴できるような支援が望ましい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物のしわ伸ばし、ハンガーはずし、部屋掃除、シーツはがし、など、利用者の力を活かせる場面作りをしている。利用者は抹茶、新聞ちぎり、塗り絵など楽しんでいる。	○	
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑内外は広く、散歩や喫茶店、パン買いに出かけている。住んでいた家までドライブし喜ばれたこともある。	○	さらに利用者が地域に出かける機会が増えることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない支援をしている。職員は利用者の動向をさりげなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内での協力体制が確立されていて定期的に避難訓練を実施している。非常時対応として利用者の状態がわかるように居室入り口に印がつけられている。地域との話し合いは行われていない。	○	運営推進会議で、地域の人々の意見を聞いたり話し合われることを望む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態にあわせお粥や刻みなど配慮している。必要な場合は食事量や水分量を把握し個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広くてゆったりとした造りで、ソファやテーブル、ベッドなど思い思いに過ごせる場所がある。過度な装飾をしないよう心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせた居室作りがされていて、写真や手作り品、手紙などを置いている人もいる。持ち込みの少ない人には家族に働きかけたり、職員が工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。